

測る。

エレクトロニクスの最後は「光を測る」。
光の機能や用途をご紹介してきた
“光で〇〇する”とは違ったウシオのこだわりが、
ここにもあります。



もしも、波長が違っていたら

たとえば、皮膚治療で使われている波長308nmの紫外線。その波長がもし違っていたら副作用のリスクが高まり、患者さんを苦しめてしまうかもしれません。照度が強くても皮膚に負担をかけてしまいますし、逆に照度が弱いと治療時間がかかってしまいます。これは半導体や液晶パネルの製造、印刷、植物育成など他分野も同様で、光のエネルギー利用が拡大するにつれて特定の波長を持つ機能や用途が細分化された結果、波長や照度の差異、つまり「光の質」が、製造時間やコスト、製品の品質や結果に大きく影響するようになったのです。

ウシオがつくった「光のものさし」

1970年代「産業のコメ」と称された「半導体」。ウシオの照度計は、その半導体の製造プロセスにおける紫外線露光量管理を目的に開発されたのが始まりです。その後ランプとともに市場を拡大し、光測定分野のデファクトスタンダードになりました。そして時代が変わり、一部の分野では光源もランプからLEDへと移行しつつありますが、産業用として使用するLEDの光には、まだまだバラツキがあります。そのため市場からは、さまざまな光源の光を正確に測ることが求められています。

そこでウシオは、業界に先駆けて基準をつくり、規格化。絶対値を保証するための校正のトレーサビリティ体系を確立し、維持管理を継続することでお客さまの要求に応えてきました。

いま、照度計が光を導く時代に入りました。これからも「光のものさし」を追求し、市場をリードしていきます。



紫外線薄型照度計
UIT-0365

紫外線積算光量計・
紫外線照度計
UITシリーズ



分光放射照度計
USRシリーズ



分光反射率計
UREシリーズ

“光を測る”いろいろ

